

このまちの見る夢が、
わたしの夢です。



飯塚庄内田川バイパスとボタ山

もくじ

ごあいさつ	02	リスク管理体制	21
地域とのふれあい	03	お客さまの保護について	23
中小企業の経営支援に関する取り組み	09	営業のご案内	27
地域経済活性化への取り組み	11	投資信託のご案内	31
企業理念・おもな業績	13	手数料のご案内	33
組織	15	サービスのご案内	35
総代会	17	資料編	38
信金中央金庫・クローバーしんきんグループ	20	バーゼルⅢ	61
		あゆみ	69
		索引	70
		店舗のご案内	71



ごあいさつ



飯塚信用金庫 理事長 緒方 隆博

皆さまには、平素より飯塚信用金庫に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本年度も、「いいしん」のディスクロージャー誌「2019 IISHIN DISCLOSURE」を作成いたしました。ぜひ、ご一読いただき、「いいしん」の経営内容や事業活動についてご理解を一層深めていただければ幸いに存じます。

国内景気は、大企業を中心に好調な企業収益を背景とした設備投資の増加等から、マクロ的には、緩やかな回復傾向となりました。

しかしながら、国際的な景気動向においては、米中貿易摩擦、中国・欧州の経済減速、英国のEU離脱交渉の難航など、世界規模での成長の鈍化が懸念され、先行きの不透明感が増していると言わざるを得ません。

そうしたなか、地域経済においては、依然として個人消費は力強さを欠いているほか、原材料費の上昇や慢性的な人材不足、経営者の高齢化や後継者難が深刻化しており、地域における中小企業の業況は未だ厳しいものがあります。

一方、信用金庫を取り巻く環境は、日本銀行の長引く超低金利政策によって、預貸金利鞘や有価証券運用益を中心とした利益の確保が一段と困難になり、地方銀行106行の半分にあたる54行が本業で赤字に陥っているとされています。

このようにかつてない厳しい環境のなか「いいしん」におきましては、自らが得意とする地域密着・中小企業専門金融機関という本来の使命を、徹底して実行していき地域社会および地域のお客さまから必要とされる、なくてはならない金融機関として認めていただけるよう努めてまいりました。

具体的には、お客さまの課題解決への取り組み、事業融資の積極的な推進およびお客さまの要望・申込みへの速やかな解決・回答に取り組んでまいりました。その結果、当期純利益につきましては僅少であるものの前年度を上回ることができました。

さらに地方銀行の半数が赤字と言われる本業においては、創業以来、黒字を継続しており、貸出金利息収入で経費を賄うことができるなど、安定した経営基盤を維持することができております。

2022年に迎えます「いいしん創立100周年」および更なる100周年に向けて、経営理念である「地域を創造するトータルコア企業」として、地域活性化のため一意専心努力してまいります。